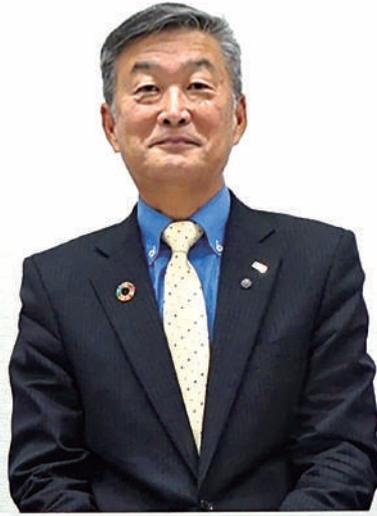




代表理事／小西 啓介氏



代表理事／林 哲也氏



事務局長／大森 基生氏

新春座談会

『昨年の振り返りと今後について』
～代表理事と事務局長に聞く～

【出席】

香川県ケアマネジメントセンター(株)
代表取締役
林 哲也氏
(代表理事・高松第4支部)

(株)ウエストフードプライニング
代表取締役
小西 啓介氏
(代表理事・中讃第2支部)

香川同友会
事務局長
大森 基生氏

【司会】 広報・情報化委員長
(株)ウェブズ工房
代表取締役
佃 俊一郎氏
(高松第4支部)

司会 明けましておめでとうございます。今年もよろしく願います。早速ですが、同友会と自社企業は車の両輪とよく言われますが、昨年1年間の自社経営を振り返ると、どんな年でしたか。

林 当会の発展のために尽力されてきた川北会長がご逝去されたことは本当に残念なことです。企業の大小にかかわらず、対等につきあっていたいただき「同友会は経営者が対等平等に学び合う団体」だと身をもって示されていました。

同友会はコロナ禍が始まった2020年の初期から「同友会運動と経営を止めない」ということを発信し続けていますが、それに導かれて様々な努力をしてみました。11月に自社の定時総会を開催しましたが、9月末までに掲げていた会社としての目標が達成でき、また、事業の利用者の

介護サービスを止めてはならないとケアプランを作り続けることを使命に、感染に留意しながら仕事を続けました。

また、この1年間で行った業務改善も結構あります。例えば、IT活用でRPAロボットを使って「郵送による個人情報の廃止」に着手し、改善が実現しました。また、昨年末にはSDGsの観点から自社の社屋屋上に太陽光発電を設置しました。

28年前に1人で創業した会社ですが、昨年4月に2名の新卒者を採用し、グループ全体で64名の陣容で仕事に取り組んでいます。

今回の自社の総会の特徴は東讃支部の「職人の聖地」「上靴の聖地」など「聖地シリーズ」に学びました。10年ビジョンの見直しで自社での存在価値、地域づくりと関連させ、自分たちが頑張ることによってどんな地域がで

きるかを「聖地」の言葉に置き換え議論しました。一例ですが、ケアマネの本来の仕事が「在宅で生き抜いていくことができる希望の灯(あか)りを灯(とも)していく灯火業」と定義し、「在宅で希望の光を見つけることができるよう、寄り添いの聖地をつくる」と表しました。同友会運動の到達点の努力を続けることと、自社経営のヒントが反映された1年だったように思います。

小西 昨年を振り返ると最も大きな出来事は川北会長のご逝去です。経営者としていろんなアドバイスをいただいたこともあり、私にとつて父親のような存在でした。代表理事という重責とエールを川北会長から重いエールをいただいたような気がします。

自社の1年を振り返ると、年初めの正月は非常に好調だったのですが、その後は必ずずるとコロナの影響を受け続けました。コロナ拡大当初の2020年は比較的確のんび

りムードで様子を見ていましたが、翌年の2021年は収束の見えない感染拡大に危機感を募らせ、このままだと会社が潰れる

かもしれないと不安が大きくなりしました。現状打開のための戦略を次々に打ち出しましたが、その際のベースになったものは社員とその家族の生活を守ることと、将来に向けて発展と成長を続けることでした。そのために経営理念と10年ビジョンにしっかりと向き合い、自社も戦略をしっかり立てていこうと考えました。

具体的には社員教育、うごんの価格の見直し、新規出店とFC加盟店の開発、本部改革等に積極投資をしましたが、「事業は人なり」の言葉通り、人材育成、とくに店長教育に時間と資金を投入しました。いままで通りのことをしていたのでは利益が出ない時代になり、経営的には非常に難しい環境が続く中、生活コス

トの上昇を鑑み、賃金の大幅ベースアップを図ったのですが、何とか9月決算を営業黒字で迎えることができたのは、仲間たちが一丸となって売り上げや利益、顧客満足に努めてくれた結果と感謝しています。

今年には本社工場が完成予定ですが、新業態の開発も進めています。新規事業のクラフトビルが昨年末に初仕込みを終えるなど、いろいろと取り組んでいます。引き続き人材教育にも注力し、徹底的に攻める1年にしたいと思っています。

司会 ありがとうございます。では事務局としては、いかが

でしょうか。

大森 同友会事務局としての振り返りですが、昨年は各地同友会や行政からの問い合わせが非常に多い1年でした。新潟同友会・広島同友会・千葉同友会からは法人化の問い合わせが、福岡同友会・宮城同友会からは活動の問い合わせが、京都同友会とは事務局交流がありました。行政からはプラットフォーム香川関連で多くの問い合わせが来しました。

事務局長としての振り返りですが、2021年4月の事務局長就任から2年が経ちましたが、その間の他県同友会とのかかわりの中で、香川同



友会の会員さんは事務局への理解が深いことがわかり、私たち事務局はとても恵まれた環境で仕事をし、会員さんと一緒に運動をさせてもらっていることを強く感じました。

6月に2回目となる事務局指針の発表会を行いました。

事務局が掲げている「香川から日本を変える」という10年ビジョンが、もしかしたら10年もかからず5年ぐらいで達成できるのではないかと思ったりしています。ただし、失敗も幾つかあります。7月に新役員を採用したのですが、何とか育てていけるのではないかと安易な気持ちで採用した結果、3カ月で退職ということになってしまいました。

司会 ありがとうございます。続いて社会情勢についてお聞きしたいと思います。いまだコロナの収束が見えない上に、ウクライナ・ロシア問題が発端となり物価高・円安が続いていますが、同友会としてはどう受け止めておられ

るのか、またその対応策について林代表理事にお尋ねします。

林 私は『同友かがわ』2022年11月号に掲載の「景況調査」に示唆があると考えています。時間の都合で全てはお話できませんが、一つは、「経営指針の実践がどのように活かされたのか」「経営指針を企業経営の中でどういうふうに位置付けられて運用されているか」について、「理念の共有が進んだ」「社内の風通しが良くなった」は従来同様ですが、ここで注目されるのがコロナ禍で経営環境が激変する中、経営指針の活かされ方が変化していることです。

「新事業の取り組みに繋がった」「顧客ニーズに対応した企画力・提案力・営業力が向上した」とあり、コロナ禍の経営環境の変化に即応した形で経営指針の取り組みをしている企業は、経営指針の使い方

が変わっていると指摘されています。これが香川同友会の景況調査の特徴です。

また、香川は飲食業の悪化が顕著なので、飲食業を意識した経営や経営指針運動について、しっかりと考える必要がある地域だということもわかりました。

それから、「緊急アンケート」の結果から、アフターコロナのインバウンド対応や事業承継、いわゆる後継者問題があります。後継者をどう育てていくかをキーワードに考えていかなければなりません。

以上のことから、新しい環境の中で対策をしっかりと考え、「小さな一流企業」へと前進するために「労使見解」の精神に基づく

企業経営が求められていると考えます。

司会 続いて、取り組みが進み、注目が高まっている「インタビューシップ」について大森局長、お願いします。

大森 三木高校との「インタビューシップ」も今年で5年目に入りますが、昨年は飯山高校との包括的連携協定の締結がありました。また、三木高校、高松商業高校、飯山高校、高松中央高校、志度高校と昨年は5つの高校で「共育型インターン



シップ」が実施されました。おそらく今後、この運動は確実に地域に広がっていくと考えられます。同友会の取り組みを教育委員会も注目していますし、高松大学や高松市も注目しています。

三木高校の「インタビューシップ」の活動が地域に広がっていることを感じていますが、地域の要望に応えるには「インタビューシップ」のできる企業づくりの推進が不可欠です。まだまだ多くの課題を抱えています。ですが、じっくりと進めていきたいと思っています。

司会 ありがとうございます。続いて小西代表理事、今年設立予定の三木支部について誕生の経緯と設立への思いをお聞かせください。

小西 同友会運動イコール地域づくり運動と私は受け止めています。本来の三木支部の設立はそれにあたる一つの具体的な事例ではないかと思えます。円安と物価高、戦争危機による不安定な国際情勢、自

然環境に目を向けると温暖化による気候変動等々、経済環境や地球環境は激変しています。中小企業がこの激変

期を耐え、さらに発展するためには連帯や連携は必須では

ないかと捉えてきましたが、あるとき林代表理事が同友会運動の本質的なテーマである地域づくりの前進への提言として、各行政ごとに支部設置が求められるという旨の話をされました。おそらく当時は個人的な目標だったと思うのですが、その話には強く共感するものがありました。

産官学金法の連携はまさにこれに該当するものです。ですから、今年と同友会と行政、さらには教育機関との連携が生まれる記念すべき元年になるのではないかと、三木支部設立に関して期待しています。幸いなことに三木高校との「インタビューシップ」の取り組みなど、三木町と同友会自体が非常に友好的な関係を築けてい

るので、それが新支部設立の基盤となるのではないかと思っています。

いろいろな制度や条例制定を前進させるためにも三木支部設立を発展的に捉え、成功させることが我々同友会の一つの目標になると考えます。三木町に同友会の支部ができて良かったと思ってもらえるように発展していくことを期待し、応援したいと考えています。

司会 最後に今年の抱負と会員の皆さんへのメッセージをお願いしたいと思います。

林 香川同友会は、2025年に「青年経営者全国交流会」、2027年「中同協定時総会」という二つのビッグな全国行事を誘致しており、ふさわし

い香川同友会へと

前進するために、ビ

ジョンが明確でなけれ

ばなりません。香川同友

会がこの間に提起してきた「小

さな一流企業」づくりの定義を

改めて確認しておきたいと思

います。

まず第1は、顧客に役立つ商

品・サービスを提供し、喜ばれ、

社員と家族の誇りとなる会社。

第2は、社員と家族の豊かな生

活を実現できる給与を支払い、

黒字経営をしている会社。第3

は、会員企業が経営指針に基づ

き、小さな成功体験を積み重ね

て、労使の深い信頼関係がある

会社。第4は、「小さな一流企

業」になることで、地域の希望となる会社。第5は、一人経営者も、経営指針に基づき成果のともなう「人間尊重」の経営を追求する事業は「小さな一流企業」である。

以上ですが、この「小さな一流企業」づくりというビジョンを、会員企業や同友会組織で明確にし、その実現のための「戦略」と「徹底実践」のあり方を具体化することが大切だと考えます。

自社経営に関しては、コロナ禍の中、経営指針で掲げた目標を何とか達成し、社員数も増加しました。今後の方針のポイントは「企業変革支援プログラム」で課題を分析し、「経営企画」の機能強化を図ることだと考えています。

小西 自社経営については立てた計画を一つずつ丁寧に進めながら、引き続き地域から愛されて香川県を代表するような会社にならねばならないという努力を積み重ねていくつもりです。

同友会活動、運動について

は、代表理事として1年目の活動の反省を踏まえ、2年目は理事メンバーを中心に会員の皆さんのご協力をいただきながら、多様化した経営環境と会員企業のニーズ、そして地域社会の期待に応えられるような香川同友会の体制づくりを推進していきたいと思っています。

また、林代表理事のお話にもあった「青全交」と「全国総会」に向けた取り組みが、今年はいよいよ具体的になってきます。このような取り組み、経験を発展・成長のまたとないチャンスと受け止め、会員の皆さんに主体者意識を持って活動していただきたいと思います。また、「同友会運動」は、「地域づくり運動」であることを確認し、意識を高めていけたらと思います。

大森 今年採用に真剣に向き合う1年にしたいと思っています。林代表理事から、「ITリテラシーの高い、アナログ

で人たらしの事務局員」、これが事務局員のあり方だという提起をいただきました。「ITリテラシーの高い」という部分は事務局内で培っていく部分かと思いますが、香川同友会の伝統と思われる「アナログで人たらし」の部分を持ち合せた局員を採用できるように、事務局全体で取り組んでいきたいと思っています。

香川同友会は全国的にも地域からも注目されています。会員さんには、それぞれの活動に誇りと自信をもって活動していただきたいと思います。また、激動の時代を生き抜く企業づくりのヒントが同友会には必ずあると思っています。今年2023年10月に中同協役員研修会を誘致し

ており、これを経て全国大会に臨んでいくという香川同友会50周年事業の計画のスタートの1年目です。ぜひ皆さんと一緒に活動していきたいと思っています。

司会 貴重なご意見をありがとうございました。新しい気持ちで今年1年を過ごしていければと思います。皆さん、ありがとうございます。

